

令和2年度小笠原諸島世界自然遺産地域連絡会議 意見対応

1. 令和2年度以降の振り返り

会議	実施日	主なご意見
令和2年度第1回 地域連絡会議	令和2年 10月9日	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>地域連絡会議の今後の進め方</u>…懇談会の開催、地域連絡会議の位置づけの整理 ・ <u>無人島ネズミ対策</u>…カワラヒワ保全に係るネズミ対策の実施 ・ <u>有人島ネズミ対策</u>…検討体制へ地域住民の参画 ・ <u>オガサワラシジミ保全</u>…保全対策の成果、弟島での調査実施
令和2年度 地域連絡会議 懇談会	【父島】 令和2年 12月16日	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>地域連絡会議の今後の進め方</u>…地域連絡会議の位置づけの整理 ・ <u>無人島ネズミ対策</u>…根絶を目標とした徹底駆除の実施、新技術への挑戦、島間移動のデータ分析 ・ <u>有人島ネズミ対策</u>…対策への協力、対策回数・範囲の拡大、新技術の確立、普及啓発の強化 ・ <u>オニヒトデ対策</u>…監視体制の強化、地域連絡会議での検討
	【母島】 令和2年 12月18日	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>有人島ネズミ対策</u>…対策回数・範囲の拡大、無人島対策からの技術還元、普及啓発の強化 ・ <u>土付き苗対策</u>…普及啓発の強化、インセンティブ検討 ・ <u>オガサワラカワラヒワ保全</u>…島民による目撃情報の蓄積 ・ <u>ノネコ対策</u>…母島におけるノネコ対策の必要性
令和2年度第2回 地域連絡会議	令和3年 2月24日	緊急事態宣言発令中のため延期
調査票	令和3年 2月16日～ 3月3日	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>有人島ネズミ対策</u>…詳細は資料3参照 ・ <u>遺産登録10周年事業</u>…詳細は資料4参照 ・ <u>その他</u>…10年間の振り返り、サンゴの白化、漂流ゴミ、林野庁母島施設、指定ルートに関する情報提供、地域連絡会議のあり方
令和3年度第1回 地域連絡会議	令和3年 6月9日	緊急事態宣言発令中のため延期
	令和3年 7月7日	本日

2. (参考) 意見対応

○：令和2年度第1回地域連絡会議 (R2. 10. 09) における意見等
 (父)：父島懇談会 (R2. 12. 16) における意見等
 (母)：母島懇談会 (R2. 12. 18) における意見等

(1) 地域連絡会議の今後の進め方

No.	意見	対応
1	地域連絡会議の位置づけ	
	<ul style="list-style-type: none"> ・懇談会の開催やファシリテーター導入といった新たな試みについて様々な意見があるかと思うが賛成。まずはやってみるのがよい。○ ・地域連絡会議を合意形成の場、議論の場として位置づけてほしい。○ (父) ・地域連絡会議の位置づけ、「連絡・調整」という言葉がわかりづらい。○ ・各種遺産関連事業の縦割り解消のための調整は、今後もこの会議において行うべきである。○ ・地域連絡会議は意思決定のための会議ではなく、連絡調整の会議と認識。多くの組織が集まる地域連絡会議の場で意思決定を行うのは困難。○ 	<p>(環境省) R2 年度第2回に向けて、R2 年12月に織委員をファシリテーターとして懇談会を開催。懇談会での議論を踏まえ、地域連絡会議の議題を選別しました。</p> <p>(環境省) 地域連絡会議の位置づけについては、個別にご意見を伺いつつ、設置要綱の改正も含め管理機関にて引き続き検討を行っています。改めて議題とさせていただきます。</p>

(2) 世界遺産管理に係る主な取組

No.	意見	対応
2	土付き苗対策 (ははの湯の運用) について	
	<ul style="list-style-type: none"> ・関心のない人々にどう理解を得るか、お願いに対して何かインセンティブがあるとよい。現状で対象となる苗がわかりにくい。(母) 	<p>(環境省) 別に検討する場として、母島部会が設けられています。具体的な運用については、母島部会で調整させていただきます。</p>
3	無人島ネズミ対策	
	<ul style="list-style-type: none"> ・兄島におけるネズミ対策は、低密度管理ではなく根絶を目標として対策を実施してほしい。(父) ・だらだらやるのではなく、優先順位の高い事業を選んでやっていくべき、新しい技術開発にも挑戦してほしい。(父) ・ネズミの島間移動の分析から父島での対策の必要性が浮かび上がってくるのではないかと。(父) 	<p>(環境省) 外来種問題全体に言えることですが、どこかで徹底的に駆除対応することが出来れば一番理想的な形ですが、現在、技術的に非常に多くの難しい課題に対応が求められており、なかなか徹底駆除を実施するのは難しい状況です。</p> <p>新しい技術の確立については、新規手法の情報収集を進め、効果的かつ効率的と考えられる手法に関しては、導入が出来るか検討していきたいと考えています。今年度は、平成26-29年度にかけて実施していた新規技術等の情報についての勉強会を開催する予定です。</p> <p>(環境省) 父島、兄島、弟島及び周辺属島の間での島間移動の状況については過去の遺伝解析で</p>

		明らかとなり、兄島と父島ではほぼ個体の移動がないことが明らかになっています。従って兄島の陸産貝類保全の観点からは、父島の対策の優先度は低いと考えられます。
	<ul style="list-style-type: none"> 外来種駆除を行うことは問題ないが、ガジュマルの駆除によって地盤が崩れて海に流入したり、ネズミの殺鼠剤が海に流れ出たりすることが懸念される。また、実害はないとしても風評被害の影響も考慮してほしい。(母) 	(環境省) ベイトステーションについては基本的に崖地近辺等の危険な場所を避けて設置していることから殺鼠剤が流出することはほとんどないと考えられます。
	<ul style="list-style-type: none"> オガサワラカワラヒワの保全において、ネズミ対策は必須であり、母島の属島でのネズミ対策についても取り組んでいただきたい。○ 	(環境省) 母島列島では、緊急的な対策として、昨年12月より向島においてベイトステーションを用いたネズミの駆除を開始しました。向島の対策は始めたばかりで、駆除への道筋、再侵入の有無等は見えていない状況ですが、技術的な試行からスタートしています。
	<ul style="list-style-type: none"> 母島属島のネズミ対策にあたって、特にこれまで実施されたことのない殺鼠剤空中散布については誤解が生ずる恐れがある。ネズミ対策の実施にあたり、関係機関の調整や島民への説明を進めるため専門家と島民を含めた専門会議を設定してほしい。(母) 	(環境省) 現時点では母島属島において殺鼠剤の空中散布を実施する目途は立っておりませんが、必要性が生じた場合は、兄島での取り組みに準じた環境配慮対策を実施するとともに事前に住民及び関係者への周知や意見交換などは丁寧に行います。また、向島で実施しているネズミ対策を展開していく折には、適宜、本会議等を含め様々な機会・媒体で実施状況などは周知していきます。
4	有人島ネズミ対策	
⇒資料3参照		
5	オガサワラカワラヒワ保全	
	<ul style="list-style-type: none"> 保全効果を把握するためにも、生息状況のモニタリングに島民も協力できるのでは。目撃情報を報告・蓄積できる仕組みがあればと思う。(母) 	(環境省) アカガシラカラスバトの情報収集体制を参考に、山を利用するガイドや島民からの情報についても環境省母島事務室に集約するような体制を作っています。
6	ノネコ対策	
	<ul style="list-style-type: none"> 父島のノネコを根絶してから母島の対策を始めるとのことだが、父島で増えたハトが、移動した先の母島でネコに食べられては意味がない。(母) 	(環境省) 母島北部においてもハトのネコ被害があったところでは緊急対策を実施している。緊急対策を実施すると一気にネコが捕獲されず、引き取り待機のネコが急増して全島的に捕獲調整が必要になる場合もあるので対応が難しい状況です。
7	オガサワラシジミ保全	
	<ul style="list-style-type: none"> 各種希少種保全事業について、村民には成果が見えてこない。島の重要生物がオガサワラシジミのように絶滅してしまえば取り返しがつかないため、村民としては行政に任せきりでなく意思決定に参画したいと考えている。○ 	(環境省) オガサワラシジミの絶滅回避にあたっては、これまでも様々な取組を同時並行的に進めてきましたが、より実効性の高い取組を今後行っていくため、令和2年度に生息域外個体群の繁殖途絶に係る検証を行いました。

	<ul style="list-style-type: none"> ・オガサワラシジミに対する行政の取り組み姿勢は必死感やスピード感がなく、絶滅を回避するための危機感が伝わってこない。取組の検証も大事だが、まずはオガサワラシジミの保全対策を強化してほしい。○ ・オガサワラシジミは、かつて弟島では多数確認されていた。一度、10人ほどの体制を組んで調査を実施してみてもどうか。○ 	<p>シジミの保全対策に関して、今後の継続的なモニタリング計画を作成しました。3月に専門家による冬季食痕調査を実施しましたが、痕跡等は見つかりませんでした。</p> <p>今年度も成虫がよく見られていた時期である夏季（8月予定）に一斉調査を実施します。一斉調査に参加される方の研修用に標本も用意してあります。</p> <p>（環境省）弟島では過去に何度か専門調査員による調査を複数回実施しており、信頼性の高い調査結果が得られています。</p>
8	サンゴ保全、オニヒトデ対策	
	<ul style="list-style-type: none"> ・オニヒトデについて、調査を実施しているが、十分な対策はとれていない。予算が限られており、監視体制が不十分である。サンゴやオニヒトデの問題は、他に話をする場所がなく、地域連絡会議で取り上げてほしい。（父） 	<p>（環境省）オニヒトデは回遊性で、南西諸島の事例ではサンゴの白化と合わせて大発生するとサンゴ礁に対して、大きな影響が生じる可能性が考えられています。</p> <p>まずは民間事業者が連携した取組としてサンゴやオニヒトデの監視体制の構築について協力をお願いしたい。</p>

（3）その他

No.	意見	対応
9	対策への協力	
	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客に向けた水際対策（新たな外来種の侵入・拡散防止対策）に関わる普及啓発に協力したい。（父） ・村民の力は団結すると大きい。遺産価値の保全に貢献したい人は多くいる一方で制約が多い。管理機関と村民と協働してできるよう、管理機関から村民に投げかけてもらいたい。（父） 	<p>（環境省）協力の申出に感謝します。特に属島海岸部を利用する観光事業者の外来種対策など普及啓発に協力いただきたいと思います。</p> <p>（環境省）今回の地域連絡会議では、トピックスとして有人島のネズミ対策と遺産登録10周年事業を上げさせていただきました。今後も様々な場面で協働取組を進めていきたいと思えます。</p>